



- 南部経済回廊を結ぶネアックルン橋梁、15年に完成 1
- 数字で見るカンボジア 1
- 結核感染者、10年で35%減少／2回目の全国有病率調査で判明 2
- 「住民移転」、アジア4カ国招きセミナー開催 2
- <元気で！>ネアックルン橋梁建設プロジェクト／安部善憲さん 3
- <広報班から> 3
- カンボジアの新聞から 4
- 今後の活動のご案内 4

南部経済回廊を結ぶネアックルン橋梁、15年に完成

カンボジア最大の橋となる「ネアックルン橋梁」が、メコン河のカンダール・プレイベン州境で、日本の無償資金協力により建設されている。2010年12月に着工、竣工は2015年の予定だ（写真下は完成予想図）。メコン河で分断されていた、タイからカンボジアを経てベトナム南部へと伸びる「南部経済回廊」を陸路でつなぐ橋となる。

ネアックルン橋梁は、ななめに張ったワイヤーが弦楽器のように美しい「斜張橋」。横浜のベイブリッジと同じ橋梁形式だ。橋本体の長さは640メートルで、本体に至るアプローチ橋を加えれば全長2215メートルにも及ぶ。橋の大きさを比べる際に使われる支柱間の距離は330メートルで、カンボジアで最も大きな橋になる。

特徴の一つは、メコンの流れに耐えられるよう採用された多柱基礎。2つの主塔はそれぞれ22本もの太い杭を約50m（全長70m）地中に打ち込んだ橋脚により支えられる。メコンはゆったりと流れているようにみえるが、実際には秒速約2メートルで、自転車走行と同じ速さ。流速に耐えられるよう、杭は一本の直径が2.5メートルから2.7メートルだ。

また、雨季と乾季では、水位差が約8メートルと大きく変わる。水位の変化に対応し、さらに国際航路としてカンボジア・ベトナム両国の河川港を行きかう大型コンテナ船などがスムーズに通れるよう、橋の高さは、最高水位から37.5メートルとなっている。



日本がカンボジアで支援した橋梁工事には、どれも歴史やドラマがある。なかでも、内戦を乗り越えて復旧し、平和構築のシンボルとなった「カンボジア・日本友好橋」（1994年）、カンボジア500リエル札の絵柄にもなった「きずな橋」（2001年）は有名だ。ネアックルン橋梁は、日本が架ける橋の歴史に、メコン地域南部経済回廊の発展の象徴として新たなページを刻むことになるだろう。（P3に関連記事）

■2月16日から19日まで、フノンペンの「カンボジア日本人材育成センター（CJCC）」で開かれる「日本カンボジア絆フェスティバル」で、「JICA展～日本が架ける橋」と題し、ネアックルン橋梁を紹介します。ぜひご覧ください。

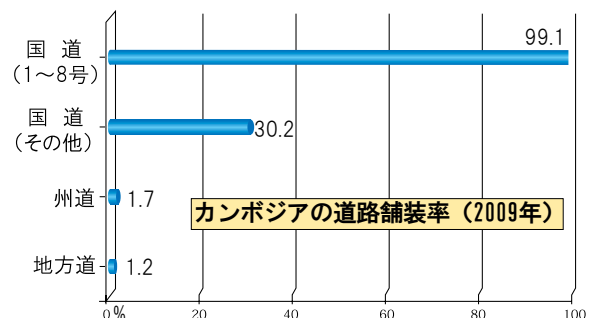
■カンボジアのさまざまな統計資料からうかがえるこの国の姿をミニ連載でお伝えします。

注）*1:AJTPInformation Center ウェブサイトより

*2:カンボジア政府Infrastructure and Regional Integration Technical Working Group統計資料より

数字で見るカンボジア <道路舗装率>

2009年時点のカンボジアの道路舗装率は7%程度。タイの92%、ベトナムの67%と比較すると圧倒的な道路インフラの立ち遅れが目立つ（*1）。国内の一桁国道（1号線～8号線）は舗装がほぼ完了（99.1%）したが（*2）、二桁以下の国道、地方道は未舗装が大部分だ。また、一桁国道もその実は大半が簡易舗装のため、完成から数年で劣化が進んでしまう。道を走ればデコボコを避けて通らねばならないため時間がかかり、雨季に移動をすれば車はたちまち泥だらけ。堅調に経済成長を進めるカンボジアだが、経済活動に欠かせない物流を支える道路インフラの修復・整備は大きな課題だ。



結核感染者、10年で35%の減少 2回目の全国有病率調査で判明

2010年12月から2011年9月にかけて、疫学的方法で選んだ全国62地区の15歳以上の住民約4万人を対象として結核の感染状態を調べた「第2回全国結核有病率調査」の暫定結果が2月8日発表された。

カンボジアは世界で最も結核がまん延している国の一つだが、今回の調査で10年前より塗抹陽性患者（顕微鏡検査で喀痰から結核菌が見つかる感染力の強い患者）が約35%減っていることが分かった。

2002年に実施された1回目の調査で見つかった塗抹陽性患者は、人口10万人あたり269人。これは、日本で最も結核患者が多かった第二次世界大戦直後の状況に近いものだ。

10年間で状況が改善された背景には、JICAをはじめとするパートナー組織によるさまざまな支援がある。JICAは、1990年代から国立結核センターを中心に支援を続け、機材や医薬品の供与に加え、薬の飲み忘れを防ぐための治療法DOTSの普及などにも取り組んできた。

JICAの結核対策プロジェクト担当者は「今回の調査で、結核対策支援の効果が客観的に示された」と指摘する。確定結果を含む公式報告書は、年内に出版される予定。



■全国を回って行われた結核有病率調査の様子

■詳しい調査の内容は、「全国結核有病率調査を中心とした結核対策能力強化プロジェクト」のニュースレターに掲載されています。

<http://www.jica.go.jp/project/cambodia/010/newsletter/index.html>

「住民移転」、アジア4カ国招きセミナーを開催

道路建設などの公共事業は、経済基盤整備の効用をもたらす一方、事業影響として生活環境の変化を伴う。こうした事業影響のうち、周辺住民へのインパクトが大きい用地取得や住民移転について、カンボジア政府（経済財務省及び公共事業運輸省）の実施能力を高める目的で、JICAの技術協力プロジェクトが2010年4月から実施されている。

プロジェクトでは、昨年、一昨年と近隣国（ラオス、ベトナム、インドネシア、バングラデシュ）の取り組みを学ぶ技術交換を実施した。その知見を踏まえ、今度は上記4カ国を招き入れて、2月13日から15日にプノンペンで地域セミナーが開催される。

カンボジアのグッド・プラクティスを紹介すると同時に、参加各国や他ドナー（アジア開発銀行）との経験共有や意見交換の場（プレゼンテーション、パネルディスカッション、現地視察）が企画されている。

同プロジェクトでは、住民移転の課題に関するセミナー開催以外にも、実施手順をガイドライン化した「手順書」の整備、OJTを通じた技術移転等に取り組んできた。プロジェクトはこの3月に終了を迎えるが、手順書を中心としたプロジェクトの成果は、カンボジアの公共事業に環境社会配慮を内在化させるためのツールとして活用されていくことが期待されている。

■詳しくは以下のURLで。

<http://www.jica.go.jp/project/cambodia/007/index.html>

元気です！

それは鳴門海峡から始まった

ネアックルン橋梁建設プロジェクト 安部善憲さん

橋の寿命は100年。歴史の荒波に耐え、人間よりも長く生きる構造物をつくる。照りつける日差しに汗が噴き出す「ネアックルン橋梁」の建設現場で、カンボジア人エンジニアらと共に働く安部善憲さん（62）＝写真、長大・オリエンタルコンサルタント共同企業体＝を支えるのは、そんな誇りかもしれない。

安部さんが橋梁エンジニアとして最初に携わった橋は、1985年に開通した大鳴門橋。「うず潮」で有名な鳴門海峡を渡るこの橋も、ネアックルン橋梁と同じ多柱基礎で支えられている。安部さんは以後、北海道・室蘭の白鳥橋など国内だけでなく、中国や韓国など海外の橋梁建設にも携わってきた。

ベテランの安部さんに加え、同じく海外でのトンネル建設など経験豊かな梶川健二さん（62）＝同＝が現場の安全監理業務を支える。だが、ネアックルンの現場にはさまざまな課題がふりかかっていた。例えば不発弾。かつてポル・ポト派の弾薬庫があり、激戦地でもあった建設予定地付近には、多くの不発弾が眠っていた。カンボジア国軍やカンボジア地雷対策センター（CMAC）により、4,000発以上が発見され、撤去された。徹底した処理により、不発弾や地雷による事故はこれまで一つもなく、安全な工事が進められている。

また、2011年後半にカンボジア全土を襲った大規模な洪水の被害も受けた。史上最悪といわれた洪水で、工事用の船着場が浸食されて崩れた。安部さんは「河岸の浸食は、年間2メートル、100年で200メートルを想定したが、今回の洪水によりたった1年で30メートルも浸食されてしまった」と、話す。

予想外の困難に直面しながらも橋づくりは進む。現場では、安部さんらコンサルタントと、施工を受け持つ三井住友建設株式会社の日本人14人に加え、カンボジア人、ベトナム人、フィリピン人、インドネシア人、バングラデシュ人、ミャンマー人など国際色豊かなスタッフが日々働いている。2004年に始まった開発調査から数えれば10年以上に及ぶ長いプロジェクトは、いよいよ最後の3年に差しかかった。安部さん、梶川さんの目には、大河を渡る美しい橋の姿がもう見えているのだろうか。



予想外の困難に直面しながらも橋づくりは進む。現場では、安部さんらコンサルタントと、施工を受け持つ三井住友建設株式会社の日本人14人に加え、カンボジア人、ベトナム人、フィリピン人、インドネシア人、バングラデシュ人、ミャンマー人など国際色豊かなスタッフが日々働いている。2004年に始まった開発調査から数えれば10年以上に及ぶ長いプロジェクトは、いよいよ最後の3年に差しかかった。安部さん、梶川さんの目には、大河を渡る美しい橋の姿がもう見えているのだろうか。

広報班から

カンボジアでは2004年から、大使館（Embassy）、NGO、JICA、商工会（JBAC）の4者により、ENJJ協議会を開催しています。大使館やJICAが、カンボジアで活動する日本のNGO関係者と、開発や国際協力についての意見交換の場を持ったことから始まり、2008年からは商工会が参加、現在の形となっています。1月26日にこのENJJの全体会議が開催されました。今回のテーマは「労働者を取り巻く社会環境」で、農村部で生活する家族と都市部低所得家族の現状を、分野や活動地域が異なる複数のNGO関係者により分析、典型的な家族の姿をスライド形式にまとめ、実演スタイルで読み上げるという、斬新な報告が分かりやすく印象的でした。

急速な社会変化を遂げるカンボジアで、草の根的な支援、民間の活力、ODAの経験と方向性等、それぞれの視点で状況を知り、考え、話し合う機会がある事は、重要であると改めて感じました。（JICAプラザカンボジア 小川紀子）

“カンボジア人のワーカーは技術的に未熟でも、素直で飲みこみが早い。工事現場は技術移転の貴重な場だと思います(安部さん)”



約80人が集まったENJJ全体会議＝プノンペン市内で

■掲載記事に関するお問い合わせは広報班までどうぞ。

+855-23-211-673

cm_oso_rep@jica.go.jp

■カンボジアの新聞から、政治、経済、社会などのニュースをダイジェストでお伝えします。

発行責任者：
JICAカンボジア事務所
広報班
6th,7th,8th Floors,
Preah Norodom Blvd., Phnom
Penh, Cambodia
+855-23-211-673
cm_oso_rep@jica.go.jp
掲載記事、写真、イラストなど
の無断転載を禁じます。

We're on the Web!
ウェブサイトはこちら
[http://www.jica.go.jp/
cambodia/index.html](http://www.jica.go.jp/cambodia/index.html)

カンボジアの新聞から (2012年1、2月)

■日本人商工会、会員数が100社を超える

カンボジアの日系企業などで構成するカンボジア日本人商工会（JBAC）の会員数が1月の定例会で、初めて100社を超え、104社となった。正会員83社、準会員15社、特別会員6社。JBACの正会員数は、2007年の34社からしばらく横ばいだったが、09年に45社と増え、11年には19社増えて69社に伸びていた。

■不動産のスタートがブノンペンに進出

不動産大手のスタートコーポレーション（本社・東京都中央区）は、海外ネットワークの新たな拠点として2011年12月にカンボジアに現地法人「STARTS (Cambodia) Corporation」を設立した、と発表した。同社によると、カンボジアで日本同様の不動産サービスを在任外国人に提供し、今年中には外国人向けのサービスアパートの自社開発も開始するという。

■カンボジアから韓国への出稼ぎ労働者が35%増

カンボジアから韓国への出稼ぎ労働者の数が2011年に4,957人となり、前年比35%増となった。カンボジアは2002年から韓国へ労働者を送っているが、その数は年々増え、現在では韓国で4番目に多い外国人労働者となっている。昨年から今年にかけての増加は、韓国がベトナムとインドネシアからの労働者受け入れを一時止めていることが主因という。

■セブ航空がマニラ・シエムリアップ便就航

フィリピン格安航空最大手のセブ・パシフィック航空は、4月19日にマニラ・シエムリアップ便を就航すると発表した。フライトは日、火、木の週3便で、往路は午後7時50分マニラ発、同9時30分シエムリアップ着、復路は午後10時半シエムリアップ発、翌日の午前2時10分マニラ着となっている。

■2011年の外国人観光客、14%増の285万人に

カンボジア観光省によると、2011年に同国を訪れた外国人は、2010年の約250万人から14%増えて285万人となった。ベトナム人が最も多く60万人（前年比28%増）、続いて韓国人が33万人（同14%増）、中国人24万人（同35%増）。同省は、2012年には外国人観光客が300万人を突破するとみている。

■ポル・ポト派裁判、S21元所長に終身刑

ポル・ポト政権の元幹部らを人道に対する罪などで裁くカンボジア特別法廷の上級審（最高裁）は2月3日、政治犯収容所S21の元所長であるカン・ケック・イウ被告（69）に対する一審判決を破棄し、最高刑である終身刑を言い渡した。刑は確定した。

活動のご案内

今後のJICAの活動や国際的な動きをご紹介します。JICAカンボジア事務所では、こうした動向をプレスリリースでもご紹介をしております。ご利用ください。

<既報プレスリリース>

2月8日 第2回結核有病率調査暫定結果発表

<予定>

2月16日～19日 絆フェスティバル（於CJCC）

2月28日～3月3日 第3回ラオスUXO（不発弾）に係る合同ワークショップ

3月7日 官民合同会議

3月7日 ツールズレン虐殺博物館特別企画展オープニング

3月13日 経済センサス確報結果発表